

表1 百日咳の咳の特徴

- ① こんなにひどくてよくなる咳は生まれて初めて
- ② 咳が出だすと止まらない、10発以上連続して出る
- ③ 咳込みがひどいと酸欠状態のようになることもある
- ④ 咳込んだ最後にヒーと吸い込むようになることもある

注：成人では①～④の特徴が乏しく、慢性の(長く続く)咳、夜間の咳込みだけ、のこともある。

(加藤 誠 作成)

○百日咳は子供の病気とは限らない
図1は埼玉県における最

10代から成人の百日咳

流行の兆し!!

『こんなにひどくて長く続く咳は初めて』

早めに医療機関に受診を!

近の百日咳の発生状況を示したものです。これをみると百日咳の流行の兆しが見え、この百日咳の流行の特徴は、図2からもわかるように百日咳にかかった人が10代から成人に多いという点です。百日咳はもとも子供の子供の病気と考えられていました。DPT3種混合ワクチンの改良と予防接種率の向上によって子供の百日咳は以前に比べて激減しました。

しかし予防接種を受けたことのある人にとっては、百日咳が激減した結果、自然感染による百日咳への追加免疫効果を獲得する機会がなくなり、そのために百日咳に対する免疫が減り続け底をつくようになって10代から成人が、最近の流行によって百日咳にかか

けです。ちょうど去年に首都圏の大学で流行のあった麻疹と同じ現象です。

○百日咳とは

百日咳は百日咳菌による感染症です。咳によって人から人に伝染します。世界のどこにもある感染症で、WHOの2006年の発表では世界の年間2千万人から4千万人で、その約90%は発展途上国の小児です。死亡数は20万人から40万人と推定されています(※1)。

○百日咳とグローバル化

日本も熱狂的なワールドカップサッカーに代表されるように国境を超える

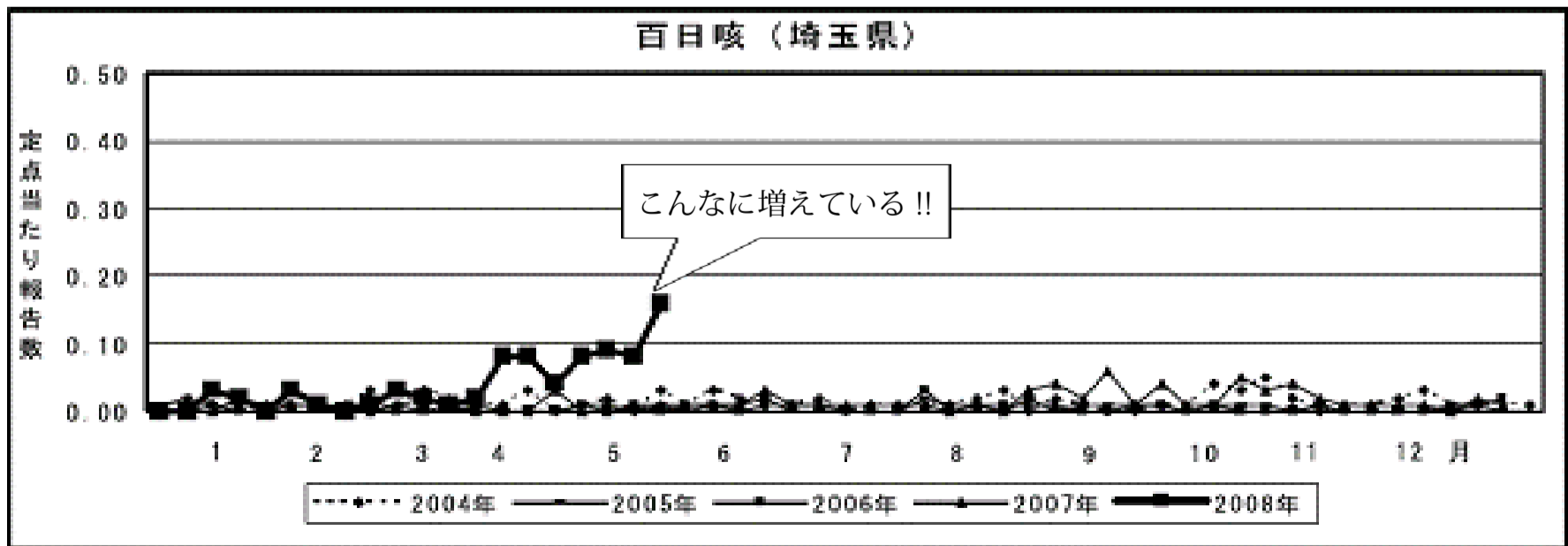


図1 年別週別報告数の推移(埼玉県:定点あたり報告数)(※2)

て人と人との交流が盛んな時代を迎えました。百日咳の免疫が殆どなくなつた成人が発展途上国に渡り、そ

こから日本に百日咳を持ち込む危険は今後も大いにありえます。

赤ちゃんは3ヶ月過ぎたら



早めにDPT3種混合ワクチンの接種を！

百日咳にかかった成人から予防接種を受けていない乳児に百日咳菌が伝染すると大変です。医師はその点を一番心配しています。乳児が百日咳にかかると、咳以外にも嘔吐、無呼吸、低酸素をきたし最悪の場合生命の危険にさらされることさえあるからです。そのようなことを防ぐためにも、3ヶ月を過ぎた赤ちゃんは、なるべく早くDPT3種混合ワクチンを受けておいたほうがよいでしょう。

○百日咳の特徴

百日咳はその症状と診察によってほぼ診断はできま

す。百日咳の咳の特徴を表1に示しました。思い当たる方は早めに医療機関に受診したほうがよいでしょう。

○百日咳の診断

診断精度を上げるために血液検査を行なうこともあります。また場合によっては百日咳菌の培養同定検査を行なうこともあります。治療には百日咳菌に対する抗菌剤としてマクロライド系の抗生物質の内服が有効です。この抗生物質は百日咳にかかってから早い時期に内服するほど有効です。診断と治療、および生活上

の注意点などに関しては、よく主治医と相談したほうがよいでしょう。他の人への伝染を予防するためにもエチケツトマスクにも心配りをしたほうがよいでしょう。

【参考文献】

※1 野上裕子.. 百日咳.. 感染と抗菌薬、2007、.. 10(4)：377-380

※2 埼玉県衛生研究所からの情報提供

【文責】

埼玉県医師会理事
加藤こどもクリニック
(加須市)
加藤 誠

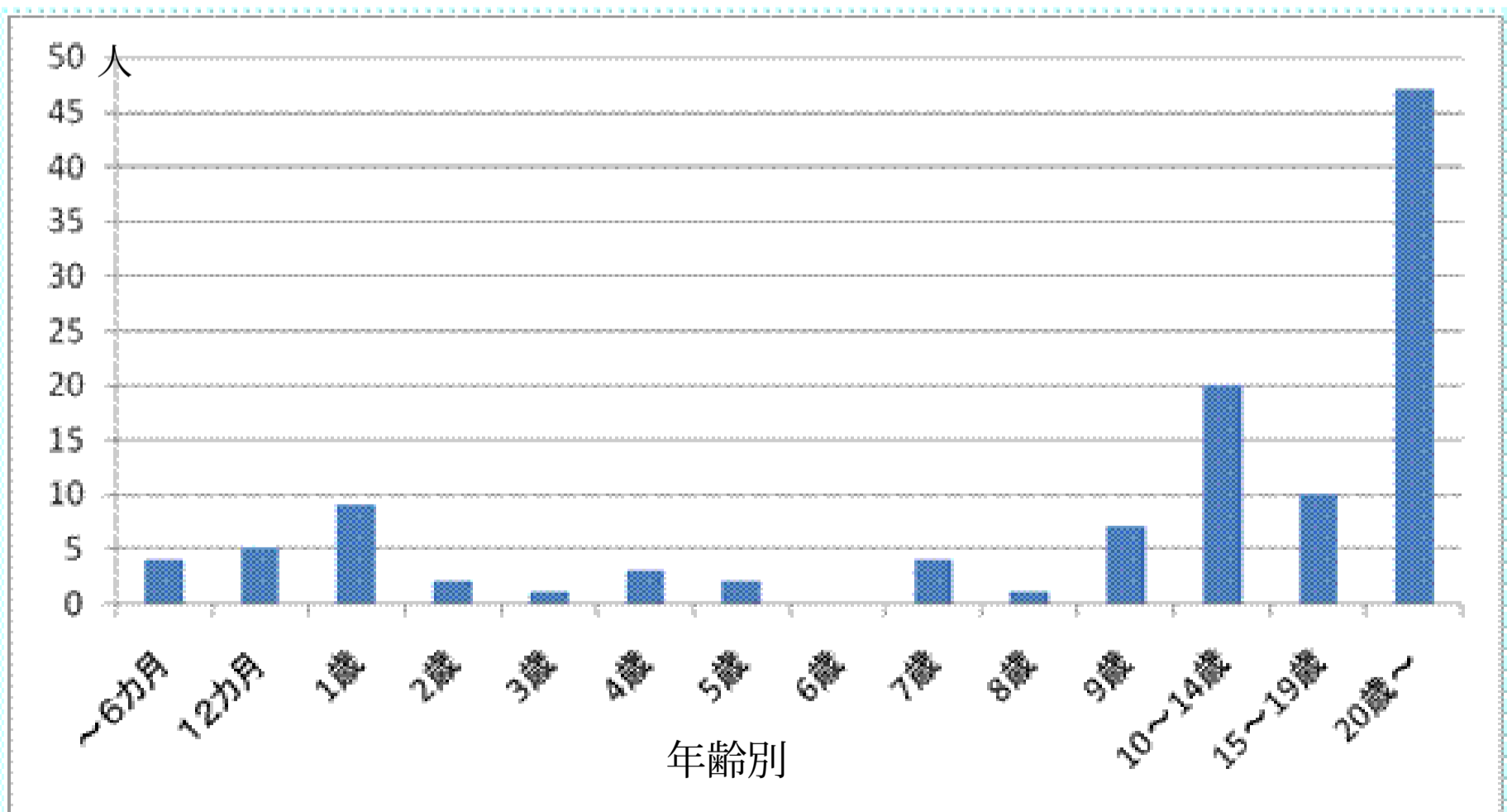


図2 百日咳(埼玉県：平成20年第1週～第20週累積、年齢別)(※2)